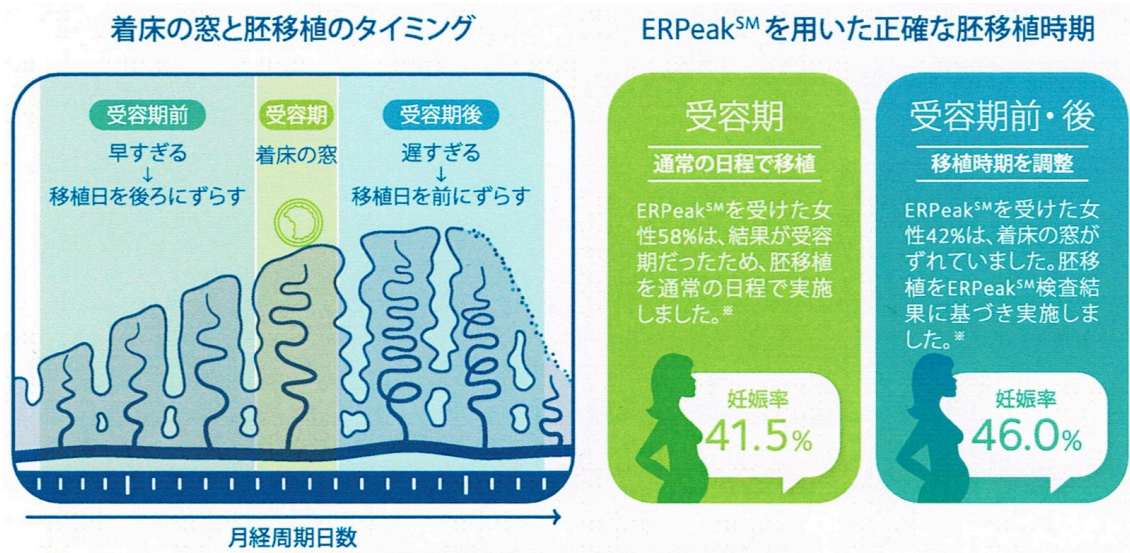


ERPeak について

子宮内膜が胚の着床を受け入れられる状態にある短い期間のことを「着床の窓」といい、子宮内膜の遺伝子発現パターンを用いて着床の窓を推測できるようになり、2011年にスペイン Igenomics 社が子宮内膜受容能検査(ERA)を開発しました。その後アメリカの Cooper Surgical 社の ERPeakSM検査は着床の窓の鍵となる 48 の遺伝子に的を絞ることで、ノイズが少なくなり、診断精度向上を期待でき、実際に再検査率が低いとされています。反復着床不全患者において胚移植の時期を最適化することで妊娠率が最大 73%まで有意に改善しています(Ruiz-Alonso M et al. Fertil Steril. 2013;100:818–824)



(参考資料提供：オリジオ・ジャパン株式会社)